

していた。GDPでも米国に肉薄し、世界第2位の地位を占めていた。しかし、2001年にWTOに加盟し、経済成長、貿易が拡大した中国に2010年に追い抜かれた日本は現在、中国にGDPで3倍以上の差をつけられ、差は急速に拡大しつつある。GDP per Capitaでもシンガポールや台湾、韓国にも追い抜かれつつある。

一方、2023年4月に人口で中国を抜き去り、GDPで22年に旧宗主国の英国を追い抜いたインドは世界第5位に躍進。さらにインドはグローバルサウスの盟主として23年9月のG20会議を議長国として成功させた。この勢いで2025年にはGDPでドイツを、2027年には日本も抜き去り、米国、中国に次いで世界第3位の経済大国に躍進するとみられている。

かつてハーバード大学教授のエズラ・ボーゲルに「ジャパンアズNo.1」と喧伝された日本は衰退の一途にある。しかし日本は官民ともに危機感がなく、東海の小島で太平の夢をむさぼっている情けない状態にある。

三つ目の「情報敗戦」の典型的な例は2011年3月の「福島原発事故」、さらに2019年から流行した「コロナ禍」への対応例である。

東京電力は地震への対応をおろそかにし、「危機管理」対策に致命的失敗をした。

危機管理の要諦は迅速な情報収集と分析、活用にある。福島原発事故の対応を見ると、すべてが後手、後手にまわり、十分な情報に基づいた対策がとられていない。

情勢判断、対策の基礎となる情報、特にインテリジェンス入手が不十分で、重要な致命的情報を迅速に収集しようとの努力もなされていなかったように見える。

日本政府関係機関、東電の連携による政府中枢との迅速な情報収集、分析、意思決定が組織的に機能していなかったのではないかと。十分な情報がないまま政策、対策を立てるに際し、情報収集やその情報に基づきだれが対応策の決定をしたのか、はっきりしない。

CIO(最高情報責任者)はだれで、どういうルートから情報を吸い上げ、だれが責任をもって、その情報を分析し、最終意思決定を行ったのか、不明である。

原発危機に際し、政策、対応、決定のための我が国の国家情報システムはいかに作動したのか。原発事故後、その情報収集、伝達、分析、政策決定に関する十分な検証がなされていないのではないかと。国家情報システムの検証と、必要により、早急なる再構築が望まれる。

危機管理に際しては、まず迅速な情報収集と、その情報分析、活用が肝心である。十分な情報なくして危機管理は不可能である。事故が発生してから、応急、対策を行うのではなく、事前に十分に情報を収集し、それを基に予防措置を講ずるのが危機管理の要諦である。

以上の観点から東京電力の対応を見ると、リスク管理、危機管理体制が十分に構築されていなかったのではと推

察される。原発事故は国民の健康に甚大な影響を与える。

今回の原発汚染水(政府は処理水と言っている)の海中への放出に関しても、危惧を抱いた太平洋諸国、中国、韓国*などアジア諸国への説明と了解取得が十分にできなかったとはいえない。日本の一方的かつ早急な放流は、今後一考の余地があると思われる。

ここでも情報の収集、分析、配布が重要であることを十分に認識すべきであろう。

一方、コロナ禍に関しても情報の収集、分析、配布について情報論的に種々問題がある。

コロナ対策にいても情報の一元管理が十分でなく、また政府関係機関連携に問題があった。さらに感染者などの集計に関しても、感染者や感染情報をFaxで送付するなどAI時代に前近代的な対応がなされていたことが明らかになり、厚生省をはじめとする日本の医療機関のIT化が諸外国比べて極端に遅れていたことが判明した。

これに比し、諸外国、中でも台湾の医療関係情報システムが進んでいることは大きな関心と呼んだ。

一方、日本の医療研究が遅れていることも明らかになった。コロナワクチン開発に於いても大幅に出遅れており、国産ワクチンはなく、欧米から高価なワクチンを大量に輸入せざるを得なかった。

これに比し、欧米に加え、中国、ロシア、なかでもカリブの医療先進国キューバが2種類のワクチンを開発。発展途上国に供給したことは大きな話題と呼んだ。

日本のイベルワクチンはアフリカやインドでも関心と呼んだとのことだが、なぜ日本で活用されなかつたのか、精査する必要があるのではないかと。

さらに情報論の観点からみると日本政府のワクチン購入明細は、国民の税金で輸入されているもの故、購入価格、購入数量、廃棄された数量、在庫数量など国民に公開すべきであると思われる。

さわせ日本独自のワクチンも将来に備え、国家戦略として早急に開発に全力を挙げるべきと思われる。

以上、「福島原発事故」、さらに「コロナ禍」には「武力敗戦」、「経済・金融敗戦」の教訓が生かされておらず、我が国は三度、「情報敗戦」の瀬戸際にある。その対応には情報を十二分に収集し、それを分析、活用するインテリジェンス力が強く求められている。

3. 情報化時代の機密保持

次に情報化時代に盛んになっているサイバー攻撃を避けるためにも情報の機密保持が非常に重要である。

機密保持に関連し、具体的理論を下記紹介したい。ビジネスインテリジェンスの重要な役割の一つに「情報